

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL: 03-5253-8111 (代)
この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。

平成25年1月



プログラム

● 選考委員からの講評

14:00～14:20

北星学園大学 客員教授 秋山 哲男 氏
東洋大学 教授 高橋 儀平 氏
関西福祉科学大学 客員教授 三星 昭宏 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

14:20～15:35

東京大学高齢社会総合研究機構

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市及び被災者を受け入れた遠野市において、仮設住宅地を一つの「まち」として捉え、地域交流、デイサービス、診療等の機能を有するサポートセンターを含め一体的に整備する「コミュニティケア型仮設住宅地」を提案して実現するなど、先駆的な事業に取り組んだ。

特定非営利活動法人 秋田バリアフリーネットワーク

秋田県内各地において公共施設等のバリアフリー実態調査を継続的に実施して関係者に改善提案を行うとともに、バリアフリーに関する普及・啓発活動を行う「人にやさしいまちづくり in あきた」を毎年開催するなど、行政との連携のもと、長年にわたり地域に密着したバリアフリー活動に精力的に取り組んだ。

静岡鉄道株式会社・静岡市

交通事業者と地方公共団体が連携して、老朽化した商業施設の建替えと鉄道・バスターミナルとの一体的な再開発事業を実施するとともに、電線地中化等の周辺整備を行うことにより、乗り継ぎの円滑化や歩行者回遊性を向上し中心市街地の活性化にもつなげるなど、全国の地方都市の模範となる一体的なバリアフリー化に取り組んだ。

ユニバーサルドライバー研修推進実行委員会

タクシー乗務員による高齢者、障害者等への接遇や介助を向上するための「ユニバーサルドライバー研修」を企画・実施するなど、タクシー事業者団体が業界を挙げて乗務員教育に力を入れ、全国への波及効果が期待される取組を実施した。

特定非営利活動法人 海の達人

障害者、健常者が共に海の魅力を味わい楽しめる機会を提供する場として「海のバリアフリーまつり」を毎年開催することや、現場のアイデアや創意工夫を取り入れたマリーナのバリアフリー化を推進するなど、全国的にもユニークな取組を行い、障害の有無に関わらず、誰もが安全に海を楽しむ環境づくりに取り組んだ。

● 表彰状授与

15:50～16:20

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めることとしております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度を創設しました。

第6回となる今回も多く優れた取組みを推薦いただき、なかでも特に優れた取組みを表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会において、本省内部部局及び地方局等から推薦のあった候補案件の中から表彰対象を選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会の委員は、以下のとおりです。

秋山 哲男 北星学園大学 客員教授
高橋 儀平 東洋大学 教授
三星 昭宏 関西福祉科学大学 客員教授

第6回受賞者の決定

23の候補者の中から選考委員会の審査を経て、5件の表彰対象を決定しました。

第6回となる今年度の表彰においては、全国各地から23件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全23件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦頂きました。今年の特徴としては、まず、東日本大震災への対応におけるバリアフリー化の取組みが挙げられます。また、ハード面については、施設単体の整備に留まらず面的な広がりを持った整備事例が数多く寄せられました。これは、基本構想に基づき地方公共団体と民間事業者が連携してバリアフリー化を行うというバリアフリー法の趣旨が浸透しつつあることの現れであると考えられます。更に、事業者による教育訓練の取組みや海における取組みなど、これまでにない分野の取組みも見られ、バリアフリー化の取組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。



選考風景



秋山 哲男 委員
(北星学園大学 客員教授)

表彰者の選定に当たっては、事業の独創性、波及性の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「東京大学高齢社会総合研究機構」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市及び被災者を受け入れた遠野市において、仮設住宅地を一つの「まち」として捉え、地域交流、デイサービス、診療等の機能を有するサポートセンターを含め一体的に整備する「コミュニティケア型仮設住宅地」を提案して実現するなど、先駆的な事業に取り組んだ点を高く評価し、表彰対象としました。

「特定非営利活動法人 秋田バリアフリーネットワーク」は、秋田県内各地において公共施設等のバリアフリー実態調査を継続的に実施して関係者に改善提案を行うとともに、バリアフリーに関する普及・啓発活動を行う「人にやさしいまちづくり in あきた」を毎年開催するなど、行

政との連携のもと、長年にわたり地域に密着したバリアフリー活動に精力的に取り組んだ点を高く評価し、表彰対象としました。

「静岡鉄道株式会社・静岡市」は、交通事業者と地方公共団体が連携して、老朽化した商業施設の建替えと鉄道・バスターミナルとの一体的な再開業事業を実施するとともに、電線地中化等の周辺整備を行うことにより、乗り継ぎの円滑化や歩行者回遊性を向上し中心市街地の活性化にもつなげるなど、全国の地方都市の模範となる一体的なバリアフリー化に取り組んだ点を高く評価し、表彰対象としました。

「ユニバーサルドライバー研修推進実行委員会」は、タクシー乗務員による高齢者、障害者等への接遇や介助を向上するための「ユニバーサルドライバー研修」を企画・実施するなど、タクシー事業者団体が業界を挙げて乗務員教育に力を入れ、全国への波及効果が期待される取組みを実施した点を高く評価し、表彰対象としました。



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)



三星 昭宏 委員
(関西福祉科学大学 客員教授)

「特定非営利活動法人 海の達人」は、障害者、健常者が共に海の魅力を味わい楽しめる機会を提供する場として「海のバリアフリーまつり」を毎年開催することや、現場のアイデアや創意工夫を取り入れたマリーナのバリアフリー化を推進するなど、全国的にもユニークな取組みを行い、障害の有無に関わらず、誰もが安全に海を楽しめる環境づくりに取り組んだ点を高く評価し、表彰対象としました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれの特徴ある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、それを通じて我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>

講評

受賞者は、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市及び被災者を受け入れた遠野市において、仮設住宅地を一つの「まち」として捉え、地域交流、デイサービス、診療等の機能を有するサポートセンターを含め一体的に整備する「コミュニティケア型仮設住宅地」を提案して実現するなど、先駆的な事業に取り組んだ点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

● 取組みの概要

東京大学高齢社会総合研究機構は、超高齢社会への対応として、高齢者が安心して暮らし続けることができる「住まい」と「ケア」を一体的に整備したまちづくりを研究している。東日本大震災発生後、被災地に積極的に足を運び、岩手県釜石市及び遠野市において、コミュニティの力で高齢者等の引きこもりや虚弱化、自殺、孤独死などを防ぐことを目的として、住民間の交流を促進する住環境の整備や、日常生活支援機能との接続などを図った「コミュニティケア型仮設住宅地」を提案し、地方自治体や地元自治会等と連携して平成 23 年 8 月に実現させた。



コミュニティケア型仮設住宅地平面図 (岩手県釜石市)
※市内から約 6km 離れた平岡総合公園内 (0.5ha) に建設

● 住民間の交流を促進する住環境の整備

仮設住宅地内にケアゾーンを設定することにより、独居高齢者や障害者などに集住してもらい、より支援が行き届きやすくしている。また、玄関を向かい合わせに設けることや、ウッドデッキを設けバリアフリー化を図ると共に、天井に屋根をかけることによって交流の場を創出している。



屋根付きウッドデッキの設置

● 日常生活支援機能との接続の実現

設計段階から関係機関と連携することにより、高齢者の生活を支援する拠点として厚生労働省が設置するサポートセンターや、被災した商店を再生した仮設店舗、路線バスの停留所、子育てゾーンなどの日常生活支援機能との連続性を確保している。

● コミュニティの包摂力向上の支援

自治会の立ち上げ支援や、東京大学、地元自治体、自治会等の代表者が参画するまちづくり協議会を設置し、仮設住宅地で発生する様々な課題の話し合いなどのコミュニティマネジメントを行っている。



まちづくり協議会の定例会議

● 今後期待される取組み

我が国は自然災害が多い上、今後ますます高齢化が進展することを考慮すると、高齢者等に配慮した仮設住宅地の整備は、重要な課題である。コミュニティケア型仮設住宅地はこれらの課題に対応する取組みとして参考となるものであり、今後この成果を踏まえ、一層の研究が進められることが期待される。

喜びの声



東京大学高齢社会総合研究機構
機構長 鎌田 実 氏

〈コメント〉

この度の受賞、大変名誉に感じ、関係者一同喜んでおります。今回評価いただいたコミュニティケア型仮設住宅・仮設のまちの概念を、今後の復興まちづくりへも展開し、長寿社会のまちづくりのモデル構築を目指します。

【受賞者】

東京大学高齢社会総合研究機構

【連絡先】

東京都文京区本郷7-3-1 Ⅱ 8号館 701号室
TEL 03-5841-1662

【活動等の経緯】

- 平成 18 年 東京大学にジェロントロジー寄附研究部門の設立
- 平成 21 年 高齢社会総合研究機構の設立。柏や福井での長寿社会のまちづくりモデル構築などの取り組み開始
- 平成 23 年 東日本大震災に際し、ケアタウン構想の提言の発表。コミュニティケア型仮設住宅の提案。
- 平成 24 年 釜石平田地区のコミュニティケア型仮設住宅がグッドデザイン賞を受賞。

【Web - URL】

<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/shinsai/shinsai.html>

特定非営利活動法人 秋田バリアフリーネットワーク

いつでも、どこでも、だれでも暮らしを楽しめる

バリアフリーのまちを目指して

講評

受賞者は、秋田県内各地において公共施設等のバリアフリー実態調査を継続的に実施して関係者に改善提案を行うとともに、バリアフリーに関する普及・啓発活動を行う「人にやさしいまちづくり in あきた」を毎年開催するなど、行政との連携のもと、長年にわたり地域に密着したバリアフリー活動に精力的に取り組んだ点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

● 取組みの概要

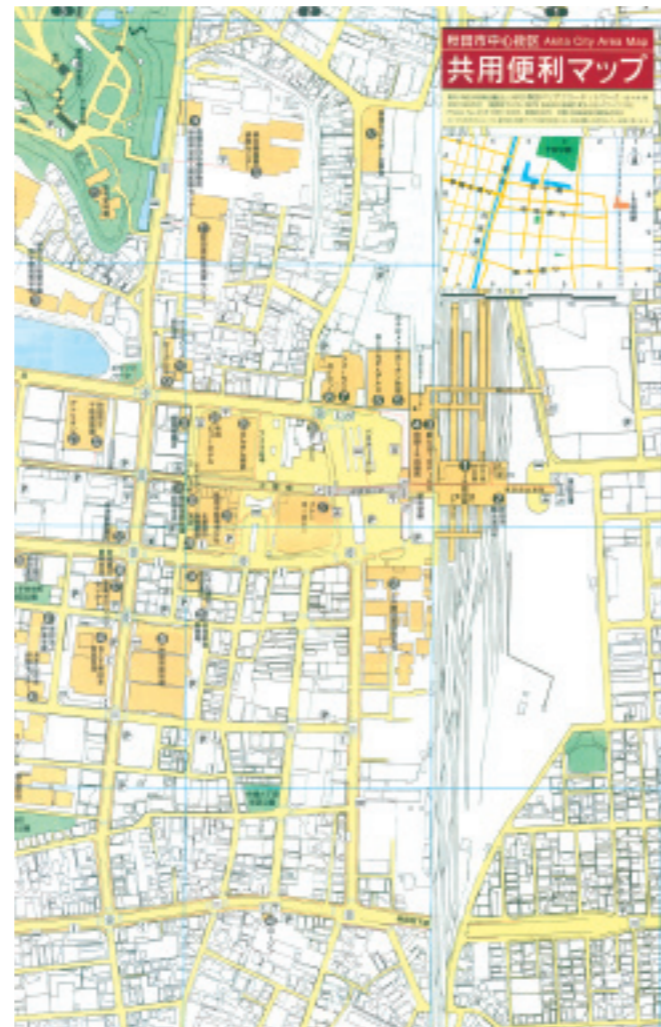
特定非営利活動法人秋田バリアフリーネットワークは、秋田県内の駅や中心市街地などの生活環境のバリアフリー実態調査に基づく改善提案を継続的に実施するとともに、秋田県バリアフリー条例策定の際は、条例の普及と促進を目的とした教育プログラムを実施した。近年では、障害者の自立支援の視点に立った「人にやさしいまちづくり in あきた」を開催するとともに、自営の自助具工房において、定期的な自助具製作研修を行っている。

● 生活環境の実態調査

秋田駅の公共通路のサイン改善提案や、中心市街地における街路のバリアフリー実態調査、秋田市内の施設のバリアフリーマップの製作などに、平成4年から取り組んでいる。また、毎年、県内市町村の中から選定した都市を調査し、中心市街地のバリアフリーマップ作成や公共施設等のバリアフリーの改善点等を取りまとめるなど、利用者の立場で検証することによって、生活環境のアクセシビリティや使用法の改善が必要な点について、関係者に提案を行っている。



現地調査の様子



秋田市共用便利マップ (バリアフリーマップ)

● 行政のバリアフリー施策推進へのサポート

「秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例」の施行の際には、バリアフリー社会の形成を進める体制を整備するため、秋田県と協働して、建築・福祉・医療等の基礎知識をもとに総合的なアドバイスができる地域のリーダーの人材（秋田県バリアフリーコーディネーター）の育成に関する教育プログラムを実施した。

● バリアフリー思想と活動普及

「人にやさしいまちづくり in あきた」を平成9年から毎年開催し、活動成果の発表や高齢者、障害者等をテーマとした講演会の開催、秋田バリアフリーネットワークが運営する「まち工房 なんも」で作製している自助具をはじめ他団体の福祉機器を紹介する福祉機器展などを通じ、バリアフリーの普及・啓発活動に取り組んでいる。



人にやさしいまちづくり in あきた



「まち工房なんも」の自助具の展示風景

● 今後期待される取組み

今後も、地方公共団体や関係事業者と一体となり継続的にバリアフリーに関する改善提案に取り組むとともに、このような活動が全国に広がることが期待される。

喜びの声



特定非営利活動法人
秋田バリアフリーネットワーク
理事長 佐々木 孝 氏

【コメント】

この度は大変名誉な賞を頂き、会員一同これまでの活動を振り返りながら報われた思いと喜びに浸っております。この受賞はこれからの更なる活動のバネとなります。これまで活動を支えてくれた多くの方に感謝の念を捧げます。

【受賞者】

特定非営利活動法人
秋田バリアフリーネットワーク

【連絡先】

秋田市大町1丁目2-40
TEL 018-853-7475

【活動等の経緯】

- 平成8年 秋田バリアフリー研究会発足、市街地実態調査の開始（現在に至る）
- 平成9年 「人にやさしいまちづくり in あきた」の開催開始（現在に至る）
- 平成11年 NPO 法人秋田バリアフリーネットワーク改組
- 平成11年 県内類似活動団体との協力活動開始
- 平成13年 秋田県バリアフリー条例策定への協力
秋田県バリアフリーホームページの作成
- 平成14年 秋田県「秋田型住まいづくり」地域勉強会及び普及に協力
- 平成15年 秋田県バリアフリーコーディネーター養成研修
- 平成16年 自助具工房「なんも」の発足（現在に至る）
- 平成20年 秋田福祉機器展の開催スタート（現在に至る）

講評

受賞者である静岡鉄道株式会社は、老朽化した商業施設の建替えと鉄道・バスターミナルとの一体的な再開発事業を実施し、また共同受賞者である静岡市は、当該再開発事業の完成に合わせて電線地中化等の周辺整備を行うことにより、乗り継ぎの円滑化や歩行者回遊性が向上し中心市街地の活性化にもつなげるなど、交通事業者と地方公共団体が連携して、全国の地方都市の模範となる一体的なバリアフリー化に取り組んだ点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

● 取組みの概要

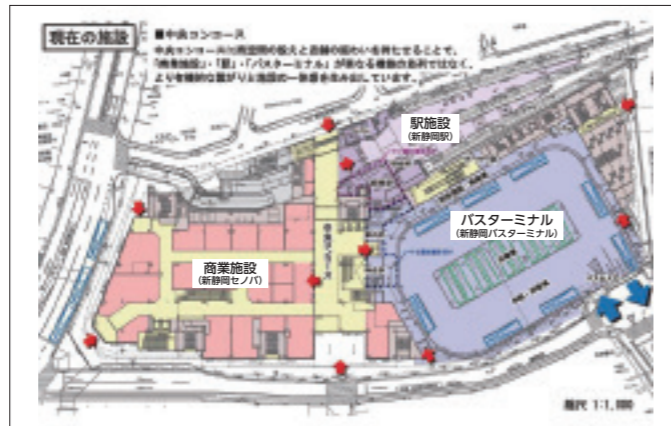
静岡鉄道株式会社は、「静岡駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」を踏まえ、老朽化した商業施設と鉄道・バスターミナルを一体として再開発を行い、鉄道とバスの相互乗り継ぎを円滑化するなどのバリアフリー化を実現するとともに、障害当事者との協議会を設置し、障害当事者の意見を施設整備に反映した。また再開発事業の完成（平成 23 年 10 月）に合わせ、静岡市が周辺整備を行うことにより、より広範囲かつ効果的なバリアフリー化を実現した。

● 商業施設と交通ターミナルとの一体的な再開発

従前は敷地内をバスターミナルが貫通していたため、鉄道駅やバス停を利用する人は地下を經由して移動する必要があったが、再開発の実施により地上部だけの移動が可能となり、バス・鉄道の相互乗り継ぎが円滑に行えるようになったほか、歩行者回遊性の向上が図られ、中心市街地の活性化にもつなげた。



施設全景（新静岡セノバ）



再開発事業の全体計画



中央コンコース（公共用通路）



新静岡駅



新静岡バスターミナル

● 障害当事者との協議会の設置

再開発事業の推進にあたり、地域の障害者団体等と「新静岡セノバ・バリアフリー推進協議会」を設立し、商業施設及び交通施設全体に関して意見交換を重ね、その際に出た意見・アドバイスを的確に事業計画に反映した。



黄色と濃いグレーを組み合わせた視覚障害者誘導用ブロック



バスターミナルの車路側に設置されたベンチ

● 静岡市との連携

静岡市も当該再開発事業の完成に合わせ、再開発敷地周辺の電線類の地中化を行うなど、交通事業者と地方公共団体が相互に連携することで、より広範囲かつ効果的なバリアフリー化を実現した。



電線類の地中化

● 今後期待される取組み

今後も、バリアフリー基本構想に基づき更なるスパイラルアップを実施するとともに、交通事業者と地方公共団体の相互連携によるバリアフリー化が全国に広がるのが期待される。

喜びの声



静岡鉄道株式会社
取締役社長
酒井 公夫 氏



【コメント】

この度は、大変名誉ある賞をいただきまして、心より感謝申し上げます。
本事業は、「静岡市都心部の新たな魅力創出・まちづくりに貢献するターミナル一体型再開発」をコンセプトに静岡市の上位計画でもある「静岡駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」を踏まえ、公共交通の利用促進に貢献するバリアフリー化された快適で利用者にやさしい鉄道・バスターミナル・中央コンコースを整備致しました。
今後も、一人でも多くのお客様に快適にご利用していただけるよう努力していく所存でございます。最後に、本事業にご支援・ご協力いただきました静岡市に対し、厚く御礼を申し上げます。

【受賞者】

静岡鉄道株式会社

【連絡先】

静岡市葵区鷹匠一丁目 1 番 1 号
TEL 054 - 254 - 5114

【活動等の経緯】

- 平成 16 年 再開発チーム設立
- 平成 22 年 新築工事着工
新静岡セノバ・バリアフリー推進協議会設立
- 平成 23 年 新静岡再開発ビル竣工
新静岡セノバブランドオープン

【Web - URL】

<http://www.shizutetsu.co.jp>（静岡鉄道株）
<http://www.cenova.jp>（新静岡セノバ）



静岡市
静岡市長
田辺 信宏 氏



【コメント】

この度の受賞を大変光栄に思います。関係者皆様に対し、心より感謝申し上げます。
本市は引き続き、行政のみならず他の事業者との連携を視野に入れながら、「誰にも安全で安心なまちづくり」を進めてまいります。

【受賞者】

静岡市

【連絡先】

静岡県静岡市葵区追手町 5 番 1 号
TEL 054 - 221 - 1413（市街地整備課）

【活動等の経緯】

- 平成 14 年 10 月 「静岡駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」策定
- 平成 21 年 4 月～平成 23 年 10 月 鷹匠 1 - 14 地区優良建築物等整備事業に対する補助事業
- 平成 21 年 12 月～平成 23 年 10 月 電線共同溝設計及び工事
- 平成 24 年 11 月 17 日～平成 24 年 11 月 25 日 江川町交差点平面横断化社会実験

【Web - URL】

<http://www.city.shizuoka.jp/>

ユニバーサルドライバー研修推進実行委員会 タクシーにおける乗務員の接遇・介助技術の 向上

講 評

受賞者は、タクシー乗務員による高齢者、障害者等への接遇や介助を向上するための「ユニバーサルドライバー研修」を企画・実施するなど、タクシー事業者団体が業界を挙げて乗務員教育に力を入れ、全国への波及効果が期待される取組みを実施した点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

● 取組みの概要

今後のタクシー業界におけるユニバーサルデザイン車両の普及を展望し、乗務員の接遇等のソフト面に係る教育が必須であるという意識のもと、タクシー乗務員による高齢者、障害者等への接遇や介助の向上のため、タクシー業界が主体となり作成した「タクシー乗務員バリアフリー研修カリキュラム」を具体化し、平成 23 年 10 月より「ユニバーサルドライバー研修」を実施しているほか、研修講師の養成も行うことで、研修の全国への普及・推進を図っている。

● 幅広い研修内容

研修期間は 1 日（7 時間）で、研修内容は「講義」、「映像」、「討論」、「実践」とし、専門家等による講義やグループディスカッションのほか、車いすを使用した接遇・介助の実習など、多岐に渡っている。

また、研修修了者には「修了証」を発行するとともに、安心して業務に取り組めるよう低廉な「賠償責任保険」への加入制度も実施している。



研修会の様子



研修の案内



グループディスカッション



ユニバーサルデザインタクシー車両への乗車（研修 DVD より）

● 研修講師の育成

ユニバーサルドライバー研修の推進と全国への普及・定着化を図るため、研修の講師養成講座を開設している。既に全国から 50 名余の受講生が参加し、ユニバーサルドライバー研修の専任講師資格を取得している。



ユニバーサルドライバー研修のテキストを使用した講習



背中につけたボードに互いの第一印象を書く受講生の様子



車いすの取り扱いに関する実技研修



プロアナウンサーによる話し方の講義

● 今後期待される取組み

現在行われている研修に加え、フォローアップ研修や更にハイレベルの研修の実施など、研修の充実が図られるとともに、誰もが乗ることのできるユニバーサルデザインタクシー車両の普及が望まれる。また他の公共交通機関においてもこのような研修が普及することが期待される。

喜びの声



ユニバーサルドライバー
研修推進実行委員会

（一般財団法人 全国福祉輸送サービス協会 会長）
（一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
ケア輸送委員長）

代表 漢 二美 氏

【コメント】

高齢社会を迎え、タクシー業界では、高齢者や障害者などの社会参加を支援すべく様々な取組みを進め、タクシーのバリアフリー化を図っております。

しかし中小事業者が多いタクシー業界では、ハード面（車両）でのバリアフリー化に限界があるところから、乗務員のおもてなしの気持ち、接客技術の向上を図ることが大切と、タクシー業界が主体となり、平成 22 年度に研修カリキュラムを開発して「ユニバーサルドライバー研修（UD 研修）推進実行委員会」を組織し、平成 23 年 10 月から「UD 研修」を実施してまいりました。

今回の受賞は何よりの喜びであり励みとなります。

これからも公共交通機関の一員として、全国のタクシー事業者と共に、「UD 研修」の普及に全力で取り組む所存です。

【受賞者】

ユニバーサルドライバー研修推進実行委員会

【連絡先】

東京都千代田区九段南 4 丁目 8 番 13 号
TEL 03-3222-0347

【活動等の経緯】

平成 22 年 7 月 タクシー乗務員バリアフリー研修カリキュラム開発委員会設置（委員長 島津 淳（桜美林大学教授））

平成 23 年 3 月 UD 研修テキスト完成

平成 23 年 9 月 UD 研修推進実行委員会設置（全福協、全タク連）

平成 23 年 10 月 第 1 回 UD 研修実施（東京無線協同組合）

平成 24 年 1 月～ 12 月 UD 研修を全国的に推進。今後も推進する。

【Web-URL】

一般財団法人全国福祉輸送サービス協会
<http://park16.wakwak.com/~zenfuku/>
一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会
<http://www.taxi-japan.or.jp/>

講評

受賞者は、障害者、健常者が共に海の魅力を味わい楽しめる機会を提供する場として「海のバリアフリーまつり」を毎年開催することや、現場のアイデアや創意工夫を取り入れたマリーナのバリアフリー化を推進するなど、全国的にもユニークな取組みを行い、障害の有無に関わらず、誰もが安全に海を楽しめる環境づくりに取り組んだ点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

● 取組みの概要

特定非営利活動法人「海の達人」は、小中高大学生一般市民に対して、海に関する事業を行い、すべての人が自然に親しみ健やかに暮らせる地域社会作りとスポーツの振興に寄与することを目的として設立された。高齢者や障害者、健常者を問わず海の魅力を味わい共に楽しめる「海のバリアフリーまつり」を開催するほか、セイリング支援活動（セイラビリティ）を実施している。

● 「海のバリアフリーまつり」、「セイラビリティ」の実施

「海のバリアフリーまつり」は、海の世界のバリアフリーを紹介しつつ、マリンレジャーを中心に「元気に楽しむ障害者」たちを紹介することにより、海というフィールドが決して一部の人の世界ではなく、障害のある人もない人も、格差なく楽しめる場であることを広く周知することを意図している。平成18年に初めて開催して今年度で7回目となり、障害の有無、年齢、性別に関係なく多数の方が来場し、小型ヨット（アクセスディンギー）操船体験、カヌー操船体験、海の運動会や、福祉車両、福祉機器等の展示などを実施した。

また、平成19年に障害者と障害のない者が触れ合いながらともに海で楽しむことを目的として、「セイラビリティ河芸」を発足させ、4月から11月までの月2回、障害者を含む子供から大人までが、アクセスディンギーやシーカヤックなどを楽しんでいる。



海の運動会



車いすごと乗船できるハウスボート



バリアフリ「げんき舞」

● マリーナのバリアフリー化の推進

障害者がアクセスディンギーやシーカヤックに容易に乗り降りできるよう、現場のアイデアや創意工夫を取り入れ、スロープ付きバリアフリー棧橋などを整備するとともに、高齢者や障害者でも安全に操船を行うことが出来るアクセスディンギーやシーカヤックを導入した。

また、海の達人が活動を始めて以降、マリーナにおける障害者用トイレの設置、乗船用リフトの整備等や、車いすごと乗船できるハウスボート、バリアフリー化された船舶免許教習艇の導入など、マリーナ全体のバリアフリー化が進められている。



バリアフリー対応したシーカヤック乗船棧橋



障害者も容易に操船可能なアクセスディンギー

● 今後期待される取組み

「海のバリアフリー化」の普及啓発として、今後も継続的に実施されるとともに、同様の取組みが全国各地に広がることが期待される。

喜びの声



特定非営利活動法人 海の達人
理事長 大野木 博久 氏

【コメント】

受賞にあたり、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

当法人が進めてきた、「すべての人が区別なく恵み豊かな海と、楽しく安全に接するためのきっかけ作り」が高く評価されたことを、大変うれしく思っております。

これからもこの受賞を励みに、海のバリアフリー化推進へ努力して参ります。

【受賞者】

特定非営利活動法人 海の達人

【連絡先】

三重県津市河芸町東千里 854-3
(株)マリーナ河芸内
TEL 059-245-5001

【活動等の経緯】

平成18年7月 特定非営利活動法人 海の達人設立（三重県認証）

平成18～現在 海の魅力を伝えるきっかけ作りを目的とした、「海のバリアフリーまつり」の開催

平成19～現在 アクセスディンギーを活用したセイリング支援を行う、「セイラビリティ河芸」を当法人内に開設し、活動開始

平成19年4月 日本財団の助成を受けて、アクセスディンギーやシーカヤックを整備

平成19年7月 独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて、(株)マリーナ河芸内にスロープ付きバリアフリー棧橋やポンツーン（浮棧橋）を整備

平成20年7月 平成20年度「海の日」関連プロジェクトの一環として、「海の大運動会」を開催

平成24年2月 「美し国おこし・三重」プロジェクトにパートナー登録し、元気な地域づくりを目指す取組みと連携

平成24年4月 三重県内でセイリング支援活動をしている、団体と交流・協力関係を結び「セイラビリティ三重」を発足

【Web-URL】

<http://www.umi-tatsujin.net/>

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.